

令和 3 年 度

事 業 計 画 書



学校法人 愛知享栄学園

目 次

I	はじめに	1
II	令和3年度基本方針	1～2
III	事業計画書	
1.	学校法人	2
2.	享栄高等学校	3～6
3.	栄徳高等学校	6～12
4.	享栄幼稚園	13～14
IV	収支予算の概要	
1.	令和3年度当初予算（案）概要	15～21
2.	部門別財務比率	22

令和3年度事業計画書

I. はじめに

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、経済・社会環境に大きな打撃を与え、従前の行動様式による経済・社会活動は転換と変革を求められています。

とりわけ教育界においては、これまで当たり前とされてきた教員と生徒の“対面による授業形態”のみでは教育が成り立たなくなり、ICT活用による教育モデルの構築など、新たな視点に基づく教育改革が行われなければなりません。

このような状況の中、当学園においてもオンライン学習への対応を始めとしたICT環境の整備に取り組みました。

また、新型コロナウイルスへの感染防止を図るため、業者による施設の消毒作業を実施するとともに、検温器、空気清浄機等を設置しました。

また、生徒、職員に対しうがい、手洗いの励行を徹底し、全職員による週1回の消毒作業を行うなど感染防止意識の徹底を、図ってきました。

このような状況の中、建学の精神「誠実で信頼される人に」を大切にしながら社会に貢献できる人材を育成する教育を実践し、「選ばれる学校（園）」の実現を目指してまいります。

令和3年度は、下記基本方針を掲げ、全教職員一丸となって取組んでまいります。

II. 令和3年度基本方針

1. 基本方針

- (1) 建学の精神である「誠実で信頼される人に」に基づき、入学者一人ひとりを大切にし、面倒見の良い学園として、主体的で社会に役立つ人材を育む。
- (2) 各学校・園に対し、生徒・園児募集エリアの生徒、保護者、地域社会がどのようなニーズがあるかを、入試広報担当をはじめ全教職員が周知し、その期待に応えられる教育の実践を目指す。
- (3) 少子化の中、入学生徒数の減少が懸念されるが、学園収入に見合った支出にするため、人件費をはじめとした経費の適正な配分を行うとともに、内部留保金の計画的な積み立てにより、財務基盤の安定化を目指す。
- (4) 築後37年を経過した栄徳高等学校の校舎建て替え計画の概要について、検討を始める。
- (5) コロナ禍の中、生徒・教職員にとって安全な学習環境、執務環境を実現する。

2. 経営数値目標

指 標	令和3年度目標値	令和2年度目標値
① 事業活動収支差額比率	1%以上	1%以上
② 人件費比率	75%未満	75%未満
③ 管理経費比率	7%未満	7%未満
④ 人件費依存率	160%未満	170%未満
⑤ 基本金組入後収支比率	105%未満	105%未満
⑥引当特定資産繰入	学納金の5%以上	学納金の5%以上

Ⅲ. 事業計画書

1. 学校法人

1. 財務

- (1) 生徒数に見合った受入態勢整備のため、人員・設備計画を作成します。
- (2) 栄徳高等学校の校舎が、築後37年を経過し老築化が進んでいるため、新校舎建替えに向け計画の策定を行います。

2. 事務処理体制の改善

- (1) 前期に引き続き、事務処理力の向上、事務の効率化を目指します。
事務処理方法の見直しにより、改善を行います。
- (2) 職員の異動により部門毎の事務処理能力は向上しました。
引き続き外部研修の受講を奨励し、個々のレベルアップを図ります。
また、報告・連絡・相談の徹底により情報の共有化を図ります。

2. 享栄高等学校

1. 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

「教師が変われば生徒が変わる。生徒が変われば学校が変わる。」を基にして、生徒一人ひとりを大切にし、自己実現を図ることができる教育を展開する。

「面倒見の良い学校」として、きめ細かく丁寧な教育をする学校、夢と感動のある学校、地域に評価される学校の3要素を目指す。

普通科・商業科・機械科の3科の特性を生かした学習の推進と共に資格取得の徹底を図る。

- ① 普通科：栄進文理コース 補習授業の内容を充実させ、生徒が主体的に考える内容を取り入れる。
特進飛翔・躍進選抜コース 校外学習を通じて英語力の強化を図る。
- ② 商業科：各種検定試験の合格者を増やすよう、教材を精選し学年をまたがった指導を行う。
- ③ 機械科：“ものづくり”を柱とした実験・実習等の体験的学習指導の充実を図るため、教員の一致した指導を継続する。

(2) 自己点検と評価

- ① 年2回の研究授業週間と公開授業を実施する。
- ② 定期考査と課題テストに加え業者テストを採用し、入学してから卒業するまでの生徒の基礎学力の経年推移を確認する。
- ③ 年5回の研修会を通して行うテーマごとの意見交換で自己点検を行う。
- ④ 外部研修会に教員を出席させる。
- ⑤ 生徒の学習実態調査、生徒・保護者・近隣住民による学校関係者調査を実施し、その結果を分析又は参考にして学校運営・学習指導の改善を図る。

(3) 学習支援の推進

- ① 学習規律を徹底し、生徒に「わかる授業」を展開して学習実績を上げる。
- ② 朝学習・補習・補充を行い、基礎学力の定着を図る。
- ③ 年4回の土曜セミナーを開催し、生徒個々が興味のある講座に参加し、または講座を企画することで生徒の自己実現の一助とする。
- ④ 特進はオーストラリアでの語学研修を実施することにより、習慣の違いや歴史を学び、人格形成を図る。

(4) 教育のレベルの向上

- ① 毎週行う教科会議で、各担当の現状と問題点などの情報交換を行い授業にフィードバックする。
- ② 研修係が主催する研修会に毎年のテーマを設定し、場合によっては外部講師を招いて研修・確認・評価を繰り返し行う。
- ③ 大学や専門学校で校外授業を実施し、より細かな専門分野知識を身に付ける。
- ④ 初任者、経験者Ⅰ、経験者Ⅱ、主任者の経験や職責に応じた研修を行う。

2. 学生支援事業

(1) 生活の支援

- ① 部活動や生徒会活動を積極的に推進し、その活動を通じて自主性・協調性を養うことで生徒間のリーダーを育成する。
- ② 年度当初から個人面談と保護者会を実施し、生徒の諸問題を学級にとどまらず学年や部活動を通じての指導に反映させていく。
- ③ 相談室で相談員による生徒のカウンセリングを行い、保健室と担任及び学年と連携し、その問題解決につなげる。
- ④ 登校下校時の生徒の安全を確保するため、最寄り駅からの数箇所であいさすの奨励と立ち番指導を行う。
- ⑤ 享栄同窓会及びPTAからの奨学金制度の充実を図る。
- ⑥ 運動奨学生・学力奨学生・特別奨学生を認定し、模範となる生徒の増加を図る。

(2) 保護者の方々との協力関係の構築

- ① 従来の保護者会と学級懇談会に加え、年度当初に保護者会を行う。そのことによって担任と保護者の共通理解と協力関係を構築する。
- ② PTA活動を通じて、保護者が生徒との共有時間をもつことで学校教育への理解と支援の拡大を図る。
- ③ 「学習の手引」「進路の手引き」を印刷し、全生徒に配布する。

3. 教育環境の整備事業

- ① 情報実習室2のPC及び周辺機器の更新
- ② IT教育導入に向けての教員研修と機器の整備
- ③ 校舎内照明器具のLED化
- ④ 建物管理の徹底（修繕）

4. 地域連携・地域貢献事業

- ① 年4回「土曜セミナー」を実施し、地域の方々に講師や受講生として企画・参加していただき交流を図る。
- ② 地域の各種文化的行事に参加し、吹奏楽部やチアリーディング部の演奏・演技披露を推進する。
- ③ 生徒会を中心に瑞穂区の「ヤングサポーターみずほ」に参加。
- ④ 地域に定着した「街美ボランティア」に、生徒を中心に教職員一体となって参加する。

5. 生徒募集・入試に係る事業

(1) 生徒募集活動の強化

- ① 夏休みに行われる2回の体験入学会と10月下旬から行われる6回の学校説明会は、学校に触れるよい機会なのでその参加者の増加を図る。
- ② 秋の私学協会主催の「私学展」で、本校ブースへの訪問者数の増加を図るとともに、学校案内やポスター等での募集強化を行う。
- ③ 入試広報室員の担当地区で中学校長による連絡会を主催し、中学校の意見の集約と生徒たちの現況報告を行う。
- ④ 募集要項の印刷製本。

(2) 関係各所との連携

- ① 年間計画を作成し、中学校訪問を実施する。また、新入生はもとより2・3年生の近況報告等も行うことで情報交換をする。
- ② 各地域の私塾に出身生徒の資料を持参し、広報活動を含めた募集活動を展開する。
- ③ 警察署・消防署・区役所等への挨拶をし、地域との連携を強化する。
- ④ 就職先及び進学先の範囲拡大を目指し、情報収集や連携を強化する。

6. 進路支援事業

- ① 「進路の手引き」を製本し、支援体制を強化する。
- ② 推薦入試枠等の拡大のため、大学訪問を強化する。
- ③ 面接指導や論文指導等を教職員で分担し、マナーや規律を学習させる。
- ④ インターンシップを段階的に実施し、職業観の育成、積極的な進路選択による学習意欲の向上、社会人としてのマナーの習得を図る。
- ⑤ ハローワークや企業の協力を得て、進路説明会等を開催する。

7. その他

- ① 部活動の強化をはかり、スポーツを通じて校名の浸透を促す。
- ② 通学経路の地下鉄構内の案内板や車両内放送等を利用して、本校の認知度を高める。

3. 栄徳高等学校

1. 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

- ①愛知享栄学園の建学の精神である「誠実で信頼される人に」を校訓として、国際社会で活躍する生徒の育成を目指す。

《目指す学校像》

- ・夢を実現させる学校
- ・豊かな人間性を培う学校
- ・健康な心身を育む文武両道の進学校

- ②常に明確な目標をもち、真剣に事に当たる習慣をつけ、豊かな人間性、強い気力・体力、幅広い知性を身につけさせる。

- ③具体的な目標（栄徳五訓）を掲げ教育活動を実践し、生徒の育成に努める。

《栄徳五訓》

- 一 常に目的意識を持とう。
- 一 感謝の気持ちをこめて挨拶しよう。
- 一 学習、スポーツに頑張ろう。
- 一 責任ある行動をとろう。
- 一 栄徳生としてプライドを持とう。

《目指す生徒像》

- ・自分の夢に向かって邁進する生徒
- ・互いを認め、尊重し合う事の出来る生徒
- ・学習・スポーツに頑張る日に焼けた秀才
- ・何事にも真剣に事に当たる生徒
- ・自分の考えを持ち、表現できる生徒

- ④P D C Aサイクル [Plan (計画) Do (実行) Check (評価) Action (改善)] を機能させ次回の効果的な実践につなげるため、計画書、報告書、評価・改善書の提出をする。

- ⑤栄徳イノベーションをさらに推し進め、生徒の実態に応じたきめ細かな学習指導の実践で学力の向上と進路実績の躍進を目指す。

- ⑥栄徳教育システムを改善し、教育の一層の充実を図るために、年度末までに新教

育課程の完成を目指し委員会等で検討する。

- ⑦国際言語クラスにおいて、進路実績等評価が高まる中さらなる効果的な指導の在り方を工夫する。
- ⑧今後の生徒数が縮減する可能性を踏まえて適切な教員確保を図るとともに、一人ひとりの教育力向上を目指して研修の在り方を改善していく。
- ⑨図書館への来館者数の更なる増加と読書習慣の定着を目指し、情報提供の工夫、委員会活動の充実、読書感想文指導の改善で読書に親しむ環境づくりを進める。
- ⑩教育活動への信頼を得るため地域社会の様々な要請を受け止めながら、前例にとらわれず挑戦する姿勢を第一とする教員の育成に努める。

(2) 自己点検と評価

- ①保護者の意見や地域からの要請に耳を傾け、生徒・保護者・教職員を対象とした「学校アンケート調査」、教職員による自己点検と学校評価を実施し、次年度の学校経営に反映させる。本年は特に「学校アンケート調査」の分析を丁寧に行う。
- ②校務分掌組織ごとに明確な目標（できる限り数値目標）をもって業務の見える化を遂行し、年2回の定期的な振り返りを基に調整改善を図る。各分掌の重点目標の推進にあたり、確実にその成果を上げることができるよう、各分掌会議で日常的なチェックを行う。
- ③公開授業、学級懇談会、保護者会のみならず、日常生活の中で、学校に届く保護者や生徒の声を真摯に受け止めるため、迅速な報告と丁寧な情報共有ができていくかどうかの確認を職員全体に促す。
- ④年度末に各分掌、各教科で年度当初の目標に基づいた総括をして次年度に備える。

(3) 学習支援の推進

- ①落ち着いた活気のある授業を展開し、生徒一人ひとりの前向きな参加を促す。
- ②生徒一人ひとりへの丁寧な指導で、各自が夢と目標を持ち進路希望の実現を図る。本年も引き続き課題提出や指導の後の評価を丁寧に行う。
- ③各コースに応じた教育課程の編成と計画的な補習を通して、学力の向上を図る。
 - ・令和2年度は1年は Super 文理クラスを2クラス、選抜クラスを3クラス、進学クラスの7クラスを予定している。2・3年は Super 文理クラス2クラス、選抜文理クラス2クラス、国際言語クラス1クラス、進学クラス7クラスを編成する予定で、各学年12クラス、全36クラスを予定している。
 - ・コース、クラスが多岐に亘るので補習の形態をクラス単位の補習と、講座制の補習を展開する。

- ・中学校での学力が不足している1年生を対象にデジタル教材によるリメディアル講座（補習による学び直し）を開講し、本校での学習活動が円滑に進むようにサポートする。
- ④Super 文理クラス・選抜文理の3年生を対象に実施する、大学入学共通テスト及び二次試験に向けた特別時間割を改善するとともに、外部講師による補習を実施して、更なる進学指導の充実を図る。
- ⑤1年選抜クラスの数学Ⅰと英語表現Ⅰの授業は同時開講の習熟度別授業を展開し、早期から国公立大学受験者の増員を図る。2年選抜文理クラスでは、数学Ⅱ、英語表現Ⅱで2クラス3講座の習熟度別授業を展開し、3年選抜文理クラスにおいて英語表現Ⅱで2クラス3講座の習熟度授業を継続する。
- ⑥3年 Super 文理クラス及び選抜文理クラスの文系生徒を対象に学校設定科目（化学基礎演習、生物基礎演習、地学基礎演習のうち2科目選択履修）を設けて、国公立受験対策をする。
- ⑦全校コンテスト〈英単語力、基礎学力(国・数・英)〉を計画し、意欲の喚起とスキルの学力の向上を図る。
- ⑧学習支援ソフト(スタディサプリ、classi) を利用した生徒各自の学習が継続的にできるように確認と指導を行う。

(4) 教育のレベルの向上

- ①年間を通して行う教員研修が日々の授業実践につながるように一人ひとりの教育目標を明確にさせる。
- ②令和2年度から始まる「大学入学共通テスト」に対応すべく思考力・判断力・表現力を育む学習指導方法の研鑽の機会や情報の提供に努める。
- ③主体的・対話的な学習方法や更に深い学びを可能にする授業研究に努め、魅力ある授業の展開を図る。そのため、年2回研究授業を実施して教員相互の研鑽を行う。
- ④現職教育を通して正しい教育観を身につけ、教員としての資質の向上を図る。そのため、全教員の研修会を計画的に実施する。
- ⑤初任者研修会を毎週実施し、教師力の向上に努める。
- ⑥グローバル化に対応するため、アメリカの姉妹校提携を着実に進めるとともに、英語教員にとどまることなく教職員の英語資格検定試験の受験に奨学制度を設けて奨励する。
- ⑦学外での研修会等への参加で教育力向上に努め、教職員の力量を高める。

2. 生徒支援事業

(1) 生活の支援

- ①生徒それぞれの悩みを受け止め、一人ひとりが尊重される安心安全な学校づくりを目指す。
- ②様々な学校行事や特別活動を通して生徒の自主性や協調性を育む。今年は特に文化祭・体育祭での生徒の関わり方を見直し、生徒の自主性を大きく伸ばす工夫をする。
- ③きめ細かい生活指導を通じて、けじめのある躰教育をする。特に、自律心を育む教育を推進するため、本年は寄付社会貢献を目指す「マディーの日」を設定する。
- ④安全で安心して通える学校であるとともに、県内で最もマナーの良い学校を目指す。
- ⑤“いじめ”の防止、早期発見のための措置、相談・支援等を整備して“いじめ”に対する対策を推進する。
- ⑥交通安全指導の徹底、サイバー犯罪防止、薬物乱用防止等、学内だけでなく社会生活を営む上での安全指導にも取り組む。
- ⑦個人面談を通して、生徒の学校生活や学習指導をサポートし充実した毎日が過ごせるように努める。
- ⑧不登校生徒への速やかな対応（情報共有・支援の役割分担）を協力して行う。
- ⑨特別支援教育の推進のため、校内委員会を設置し支援体制を構築する。
- ⑩カウンセラーを配置して、生徒が気兼ねなく相談できる環境を整え、生徒の心理的な発達を援助する。
- ⑪外国籍の留学生を積極的に受け入れ、多様な価値観が共有できる環境づくりをする。

(2) 保護者の方々との協力関係の構築

- ①PTA活動や保護者会、進路説明会等の様々な機会を設け、協力関係の構築に努めるとともに、文化祭・体育祭等生徒の素顔に接することができる学校行事への参加を呼び掛ける。
- ②PTA委員会活動(広報専門委員会、生活指導専門委員会、部活動専門委員会)を通して、保護者の方々との連携を図る。
- ③公開授業や学級懇談を通して、保護者の方々の率直な意見を集約し反映できるように努める。
- ④保護者宛文書(教育相談の案内、図書だより、生活指導だより、保健部だより、授業料補助の案内等)を分かりやすくするとともに、メール配信を利用して保護者との連絡の徹底に努める。

- ⑤保護者を対象にしたアンケート調査を基に、学校の改善に努める。
- ⑥希望される保護者には、保護者を対象とした教育カウンセリングを実施し、学校と家庭の協力の下で生徒の育成を図る。

3. 教育環境の整備事業

- ①教員所持の P H S の管理と有効活用のため定期的に保守点検を行う。
- ②タブレットやスマホ等の I C T を活用した学習サポート体制の更なる充実を図る。
また、P C での I T 指導を進めるためマイク・イヤフォン・カメラ等の充実を図る。
- ③現在使用中の Windows7 の O S を計画的に入れ替える。
- ④生徒の出席管理・成績管理・各種証明書発行等のデータ処理は現在教務システムによって滞りなく行われている。今後も現場のニーズに対応して改善を行っていく。
- ⑤中・長期的視野で清掃等の行き届いたきれいな校舎にすることを目標に、日常的に保守点検を行い教育環境の充実と明るく活力ある学校を目指す。トイレは業者に委託して美化に努める。

4. 地域連携・地域貢献事業

- ①地域の要請に基づく学校開放（グラウンド・体育館等）を積極的に行う。
- ②医療センターと連携し、救命講習（心肺蘇生法の習得と A E D の取扱い）を実施する。
- ③クリーンアップキャンペーン（清掃奉仕活動）を通してその意義を理解させ、奉仕の精神を育む。
- ④社会福祉協力校として、地元と連携して地域主体の諸活動に積極的に参加する。
- ⑤学校周辺の博物館等を利用して生徒の見識を広めるとともに、地域との連携を深める。
- ⑥吹奏楽部・ボランティア部・ダンス部・生物部等、部活動では地元との繋がりを大事にした活動を行う。
- ⑦インターンシップで地域の企業との交流を進める。
- ⑧N P O 法人への寄付活動に生徒が参加することで、寄付行為に対しての意識を高める。
- ⑨近隣の愛知県立芸術大学と高大連携をめざし交流を行う。

5. 生徒募集・入試に係る事業

(1) 生徒募集活動の強化

- ①引き続き 400 名以上の生徒確保ができるように募集活動を行う。
- ②学校案内やホームページを更新することを通して、広く新しい情報を発信して

- いく。そのため、学校をアピールする情報を生徒・教員から積極的に収集する。
- ③生徒募集の数値目標を達成する。特に Super 文理の推薦、一般受験者数の増大を図る。
 - ④授業料補助金の拡大に伴い、新たな奨学制度を検討する。
 - ⑤文化祭等の行事に近隣の中学生を招待し、開かれた学校をアピールする。学校見学会等においてはパワーポイントの有効利用や学校紹介ビデオ等の作成をとおして、本校の魅力を積極的にアピールする。
 - ⑥中学生や保護者を対象とした学校見学会や説明会の他に、学外会場を設けて学習塾を対象とした学校説明会を実施し、本校の教育を広く紹介していく。
 - ⑦学校行事や各説明会に参加した生徒への事後コンタクトを大切にし、面倒見の良さをアピールし学校への信頼度を高める。
 - ⑧学校説明会へ参加できなかった生徒で急遽本校への進学を検討している生徒のための個別相談会を引き続き実施する。
 - ⑨受験生の動向を客観的につかむため受験生の併願校アンケートを実施する。
 - ⑩ネット出願が円滑にできるように、令和元年度の実施状況を踏まえて準備する。

(2) 関係各所との連携

- ①中学校・塾だけでなく競合相手となる他の高校の情報データをしっかり把握・蓄積し、データに基づいた戦略的な広報活動を行う。
- ②中学校との連携は広報職員による在校生の詳細な近況報告のほか、本校の様子を綴ったミニ新聞を作成し、配布することで教育活動の理解を求める。
- ③中学校・塾との連携はそれぞれの説明会の参加者数を増やすだけでなく、生徒と直接関わっている担任や塾講師との連携を密にする。
- ④帰国子女を含めた多様な生徒の受け入れを見据えて、関係各所との連携を密にする。
- ⑤教育活動をマスコミに積極的にPRして宣伝する。
- ⑥地域の主催行事に積極的に参加して本校をPRする。
- ⑦藤が丘駅や長久手イオンモール等で効果的な宣伝を実施する。
- ⑧生徒の制作した好きな本のPOP（広告作品）を有名書店で展示してもらうことで本校をPRする。

6. 進路支援事業

(1) 進路指導の充実

- ①自己実現のための進路観や職業観を育成し、進学・就職指導を具体的に推し進めるための「進路カリキュラム」の実践に当たり、全学年で実施する「総合的な探求の時間」の活動を中心に据えて展開する。

- ②インターンシップを実施し、職業を体験することで社会に対するものの見方を養い、進路意識の向上、学習意欲の向上を図る。
- ③国公立大学30名の目標到達を図るため、最後まで受験を諦めない姿勢を育てる。Super 文理クラス及び選抜クラスの指導体制を見直し、より効果的な指導方法を検討する。
- ④G T Z（学力到達ゾーン）を利用し、進学に対する意識高揚を図る。
- ⑤大学・短大・専門学校ガイダンス、キャンパスライフ体験学習等の進路行事を利用して進学に対するモチベーションを高める。
- ⑥学習支援ソフトの有効的活用ができるように指導し、基礎学力の向上、受験学力の養成に努める。
- ⑦Super 文理クラスでのクラス単位の進学補習（特別時間対応も含む）と、講座制進学補習を併用して、より効果的な進学補習体制を確立する。
- ⑧大学との高大連携プログラムを展開して、大学の教育研究に触れる機会を促進し、大学で学ぶ意義の理解を深め、進学指導・学習指導に役立てる。

（2）進路情報の共有化

- ①クラス・コースごとの生徒情報と入試情報を、担任と担当者だけでなく学年全体・学校全体で共有し、検討することで進路目標を達成することに努める。
- ②学年ごとの進路ガイダンスを実施し、生徒に的確な進路情報を提供する。
- ③保護者を対象とした進路説明会を実施し、進路情報を提供するとともに家庭での進学支援を求める。
- ④進路実現にむけて、担任・教科担任や学年会と連携して進路指導を推し進める。
- ⑤基礎学力診断テストの分析検討会を実施し、生徒の学力の現状と問題点を洗い出し、学習指導に反映させる。
- ⑥入試研究会等に参加し、最新の入試情報を入手し生徒に提供できるように努める。
- ⑦現在生徒が受験している模試のデータを有効に活用するとともに、本校の生徒のニーズに応じて受験する模試を見直す。

7. その他

- ①「栄徳イノベーション」の更なる成果が求められている。社会や時代の要請、地域や中学校の要求に応える「新しい学校づくり」に向けて今後もさらなる挑戦をしていく。
- ②教職員の「働き方改革」の視点から、教育内容の精選と労働生産性の向上を目指す。

4. 享栄幼稚園

1. 教育事業

(1) 教育充実のための取り組み

「誠実で信頼される園に」を建学の精神に掲げている本園は、この理念に基づく教育方針、重点目標を発達段階に応じて取り組んでいく。その中で、集中力、理解力、表現力、コミュニケーション力、体力の5つの力を育てるため、計画的な指導をする。

また、子どもたち、保護者、地域から信頼、親しまれるよう全教職員の資質向上のため日々研鑽努力する。

また、本年度は園舎を建替え、地域に根差した幼稚園づくりを行う。

(2) 自己点検と評価

評価項目（チェックリスト）に沿って学期毎に自己点検、自己評価を行い教師自らが客観的に指導や関わりを省みる。目の前の子どもの姿に学び、同僚の仕事ぶりや言葉を注視し、時には保護者や地域の皆さんの視線に立って子どもたちを見つめみる。

そして保育環境や保育教材、素材についても工夫しながら学び続けていく。

(3) 学習支援の推進

絵本などの蔵書を増やし、本にふれる機会を増やす。

(4) 教育のレベルの向上

教職員自身が最大の教育環境であると一人ひとりが自覚し日々の研鑽に努める。

外部講師による園内研修を行う。外部研修参加や他園へ見学の実施。

2. 園児支援事業

(1) 生活の支援

子どもの家庭環境、生活環境を把握し、一人ひとりの理解を深める。特別支援の必要性がある場合は、園医や心理士と相談し支援をする。育児相談やカウンセリングが受けられる体制はいつでもとれるようにする。

(2) 保護者の方々との協力関係の構築

HPやメールマガジンを有効活用し、園だより、クラスだよりを含め園からの発信

をできるだけ多くして、園の教育活動と子どもの様子を詳しく伝える。
母の会が行事に参加し、援助することにより、園理解に繋げる。

3. 教育環境の整備事業

新園舎の学習・生活環境を活かした本園ならではの「学習スタイル」「遊びスタイル」の確立を目指す。

4. 地域連携・地域貢献事業

12月に行われるバザーを通じて保護者や近隣住民とのふれあいの場を作る。
東栄教室で土曜日の園庭開放を実施する。

5. 園児募集・入試に係る事業

(1) 園児募集活動の強化

6月から8月にかけて10回程度見学会・説明会を行い次年度園児募集を計る。10月受付とする。

7月には「みんなの広場」を開催し教職員が未就園児といろいろなコーナーで楽しく過ごし、幼稚園や教職員に親しむ1日にする。また、保護者に対しては相談コーナーを設け質問や悩みに答える。募集に関して現在最も大切なのは、2歳児のプレ教室であるため、園児募集は1年前の未就園児教室募集が重要である。9月に見学会・説明会を行い11月受付とする。

(2) 関係各所との連携

問題を抱えている子どもが増えていることから、問題に応じて、専門家の意見を聞く。園医、心理学博士、児童相談所等との連携を密にして、子どもの安全・幸せの確保に務めていく。

6. 進路支援事業

幼・保・小連携の推進のための支援のあり方を検討する。

①幼・保・小連絡会会議にて入学前に個々に育ちの様子を伝えていき、学校からの話も伺い就学の準備をする。

②地域の小学校を訪問し、遊びに行き学校に親しみをもち、不安のないようにしていく。

7. その他

新園舎の環境を十分に活かした享栄幼稚園の教育ビジョンを構築していく。

新園舎に合わせた防災・防犯態勢を整える。